

町内井戸めぐり④

—井戸の建造年代について—

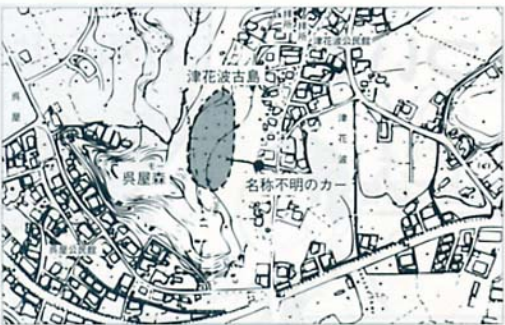
これまでみてきた町内の井戸は、いったいいつ頃に造られたのか御存じでしょうか。

残念ながらいまのところ詳細な史料がなく、よくわかっていません。

史料『琉球国由来記（一七一三年）』には、棚原・シラ河ノ巫川（神ガー）、翁長・テラノコシノロ川、呉屋根川、小橋川根川、我謝・エボシガワノ嶽（エボシガー）の五井泉の記載がみられます。また『球陽（一七四三年〜一七四五年）』外巻「遺老説伝」には小波津・テイラサガーについての記載があります。これらの井戸はその当時から存在していたことになるといえます。

では、そのほかの各集落の井戸はいつ造られたのか？

津花波には、名前のわからない井戸があります。話をきくと、その家の祖先が、津花波に移り住んできたときに、家の柱を建てる穴をほつていたらなにやら井戸の跡らしきものがでてきたので、掘りかえして新しい井戸をウミイシで造りなおしたとのこと。それで井戸の名前がないということです。つまり、ずっと以前からあった井戸なので、なんという名称で呼ばれていたか誰も知らないというわけなのです。いったいいつの時代の誰が造った井戸で、なんという名称で呼ばれていたのでしょうか。



津花波古島遺跡近くにある名称不明のカー位置図

そう考えると今ある井戸の名前や建造方法もいろいろな変遷をたどってきているのでしようね。ですから私たちは井戸の姿をきちんと記録（井戸の形や石の積み方から年代を考える、造った人や年代について聞き取りを行うなど）しておこうと思っています。だってこれからまた姿かたちを変えてしまうかもしれませんものね。